

今年、英語講義に切り替えてみて
感じたこと

先端魚類防疫学研究室 延東 真

講義について

- 大学院前期課程 - 水族感染症 (infectious diseases of fishes)-8月末に集中講義（研究室としては、この他に週一のゼミで英語の要旨準備、月一で英語による発表・討論）
- 受講者登録数-60数名
- 受講者数-約30名

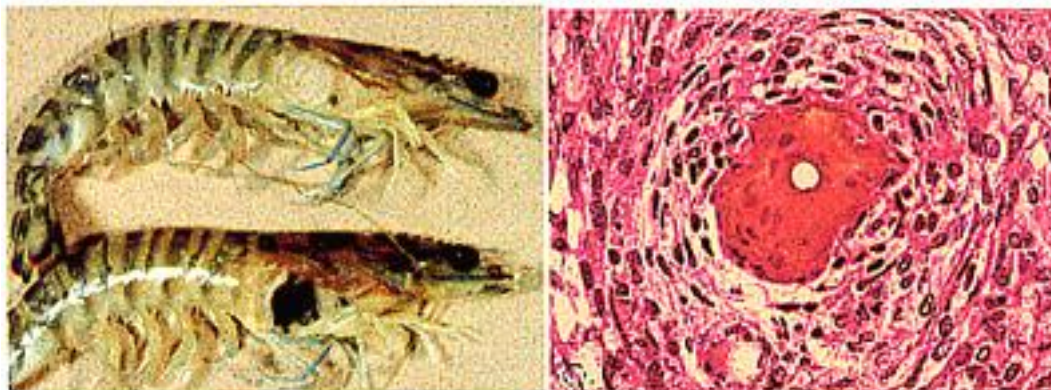
講義の内容とテキスト

- 英語のテキストを作って講義の1ヶ月前に、学生に配布(過去にいろいろなところで行った英語講義の資料を集めて作った)。
- 理論や専門用語などは自習することとした。
- 理屈や原理は話していない。現象を中心に解説。(例えば、○と△を見たら、-----と診断できる---技術者の英語。)
- レベルは学部相当(他専攻の学生も多いので)、その代わりに範囲を広げた。
- 講義中、講義とは関係、無関係の質問をよくした(良く答えた学生は少数だった、話すのが苦手、講義後に話すことができるようになるためどうしたらよいかの質問が多かったー弱点の理解)。

テキストの一部

- Black gill disease (Fig. 6)
- 1, Some species of genus *Fusarium* like *F. solani*
- 2, It occurs under high water temperature, causing serious damages in some cases.
- 3 and 4, The affected gill shows blackening in color.
- 5, Fungal hyphae can be seen in the gill, surrounded by hemocytic encapsulation with melanization.

Fig. 6 mycosis



アンケートとレポート課題

- アンケートを実施した。
- 理解度はよく理解しているものが20%、よく分からなかったものが20%、残りはスライドやテキストを見ながらなんとか理解できたようだ。
- 理解度は一般入試、学力試験免除、TOEICの点数とは関係がない。
- 今までTOEICをやっているけど、それを使う機会がなかったのが良かった、という回答があったのは印象的だった。
- レポート課題はいずれも良くできていた(ポルトガルやクウェートからの留学生にも見せたところ、感心していた。時間をかけると英語も良くできる)。